

◆H19.12.17 策定委員会意見等への対応・方針

議事要旨 意見番号	発言者	内容	対応・方針（案）	対応箇所 参照 P
1	寺本 委員	菜の花浪漫街道の指定を受けた取組みが進んでおり、計画書中で取り上げられていない。	第1回委員会においても、 高田委員より 「目的地に着くまでの景観を楽しむことが大切だ」とご意見を頂いており、そのような視点も含め、観光・交流に関する取組みの中で整理しました。	資料5 p22、p23
2	海道 委員	渥美線の豊橋駅乗り入れに伴う街づくりでの対応の進め方について具体化されていない。	第1回委員会においても「駅周辺整備」に関する検討の必要性をご指摘頂いており、駅周辺整備および田原市街化区域（中心部）における取組みについて整理しました。 また、地域公共交通計画の内容を踏まえ、公共交通に関する整理を行いました。	資料5 p2、p3、 p8、p17 など
3	海道 委員	図1で、農業集落が消えていくように表現されているのは不適切である。	第1回委員会においても「田原市らしいコンパクトシティ」に関する検討の必要性についてご指摘頂いており、コンパクトで持続可能な市街地・農業集落を目指すための方向を検討しました。	資料5 p8～p11
4	委員長	市街地から出て行くのを抑制することは可能だが、外から市街地に呼ぶのは無理ではないか。	(意見番号3に同じ)	-
5	寺本 委員	農村集落における生活支援のあり方として、最小の単位や規模ということも考えていく必要があるのではないか。	(意見番号3に同じ) 第1回委員会において、土地利用規制等に関しては、ハード整備だけでなくソフト対策も重要とのご指摘を頂いたため、農村集落の今後の整備に関しても、ソフト面から検討を加えました。	-
6	寺本 委員	住商の混在は悪いということではできないのではないか。	混在が批判の対象となっているのではなく、商業利用があまりに低密で、商業地として位置づけることの必要性がなくなりつつある、という趣旨です。 住商混在エリアについては、にぎわい機能エリアとの関連で各市街地における土地利用の方向として整理しました。	資料5 p1、p2

7	寺本 委員	幹線道路がつながっていないのはおかしい。	<p>渥美半島縦貫道は、着手済みの路線であり、田原市街化区域（臨海部）の産業交通の円滑化、広域アクセスの改善などの役割を果たすものですが、国道 259 号交差点より以西に関しては、伊勢湾口道路へのアクセス路として、次のステップの計画となるため、本計画には記載していません。</p> <p>なお、第 1 回委員会においては、道路の機能を明確にするべきとのご指摘を頂いておりますので、今回の整備方針においては、そのような視点も含めて整理しました。</p>	資料 5 p12
8	海道 委員	伊勢湾口道路は、書くだけの熟度があるのか。	<p>本市は工業出荷額、農業生産額、漁獲高、それぞれ県内でもトップクラスであるにもかかわらず、中部国際空港への 2 時間圏に含まれていないなど広域交通の利便性はきわめて低く、広域交通環境の改善を引き続き、国・県に求めていきたいと考えていますので、伊勢湾口道路に関しては、本計画に記載してまいります。</p>	資料 5 p12
9	本村 委員	福江ではスプロールが進んでおり、人口減少への対応が課題である。	<p>福江市街地に関しては、市街地としての魅力ある環境整備を図るとともに、周辺農村地域における低密な住宅立地を抑制する必要があります。これはまた、低密な農村集落の拡散を抑制することでもあり、コンパクトな街づくり・町づくりを進めていく必要があります。</p>	資料 5 p10、p11
10	委員長	商業に関しては、地元の人が必要なものを作り出していくような方向が必要ではないか。	<p>にぎわい機能の創造を支援する取り組みが必要であると考えています。</p> <p>三河田原駅周辺整備（駅舎、ロータリー等）に併せ、住宅の整備を検討しているほか、（都）駅前通り線沿道においてはにぎわいづくりのための方策を検討している段階です。</p> <p>また、空き店舗の活用や商業ベンチャー支援事業など商業者と検討していきます。</p>	資料 5 p6
11	平野 委員	田原市市街地では、商業の衰退が進み、今後はサービス業が中心にな	<p>ご指摘の視点から住商混在エリアおよびにぎわい機能エリアに関する検討を行っています。</p>	資料 5 p6

		るものと考えられる。		
12	富田 委員	質の高い住宅の整備による人口集積の促進や、若い人に魅力のある町づくりを考えてはどうか。	住宅施策に関しては「住宅・宅地」の項でまとめて方針を整理しました。	資料5 p18
13	本多 委員	都市が整備（人工化）されることによって、地域のバイタリティや活力が失われるように感じられる。	ハードウェアの整備だけでなく、市民にとって魅力的で身近なものと感じることのできる街づくりが必要だと考えています。 そのためには、市民が主体となった景観形成や市街地におけるにぎわいづくりなどが重要であると考えています。	資料5 p1、p19
14	遠藤 委員	道路や交通は、主幹線への接続が重要で、本計画でも明確にしていく必要がある。	ご指摘のとおりであり、より明確に表現していきたいと考えています。	資料5 p12
15	中神 委員	コンパクトシティは、農業サイドからもメリットがある。	ご指摘のとおりだと考えており、コンパクトな町づくりについて整理しました。	資料5 p11
16	森部 委員	市街化区域だけではなく、調整区域についても検討していく必要があるのではないかと。	都市計画マスタープランとして農村集落の整備方向について明記することとしました。	資料5 p11
17	森部 委員	湾口道路は入れないほうがよいのではないかと。	(意見番号8に同じ)	-
20	海道 委員	コンパクトシティ形成の表現として既存市街地に外部からまとめていくのは無理ではないかと。	(意見番号3に同じ)	-
21	海道 委員	人口フレームに対応した住宅政策、都市開発事業の明確化が必要ではないかと。	土地利用の観点から田原市街化区域（中心部）における取組みを中心に整理しました。	資料5 p1、p2 p18

22	海道 委員	田原らしい資源の活用を検討すべきで、特に農業や漁港をもっと計画に位置づけて言うてはどうか。	観光・交流に関わる取組みとして整理しました。	資料5 p22、p23
23	海道 委員	アーバンビレッジという考え方を含めてはどうか。	考え方としては尊重していきたいと考えていますが、「ガーデンシティ」、「コンパクトシティ」など、それ自体として都市計画の重要な潮流をなすキーワードが頻出しており、さらに「アーバン・ビレッジ」を加えることは混乱を招くのではないかと考えました。 ただ、その考え方をいかして、三河田原駅を中心とした居住や公共交通の利用について検討しました。	資料5 p1、p2 p18
24	寺本 委員	農村も含めた生活圏の階層的展開が必要ではないか。	市街地・集落の整備方針として整理しました。	資料5 p1～p4
25	寺本 委員	子育て支援が今後重要になる。	公園・緑地の整備、医療等のサービスへのアクセス、観光・交流施設の整備、住環境の整備などの視点から整理を行いました。	資料5 p16、p18、 p20、p22
26	森部 委員	市民館や保育所のある位置が農村集落のセンターになるのではないか。	施設整備、公共交通サービス水準等を考慮して段階構成を検討しました。	資料5 p1～p4
27	委員長	7の図については、わかりやすいので工夫してほしい。	(意見番号3に同じ)	-
28	委員長	臨海部の企業誘致による人口増加は田原地域が中心である。人口増加を目指すため、子育てしやすい街づくりなどを明確にしていってはどうか。	子育てしやすい街づくりに関しては、「次世代育成支援行動計画」等で推進していますので、都市計画マスタープランでは、公園・緑地の整備、医療等のサービスへのアクセス、観光・交流施設の整備、住環境の整備などの視点から側面的に支援していくものと考えております。	資料5 p16、p18、 p20、p22
29	海道 先生	図1については、平面図で書くと計画と誤解	(意見番号3に同じ)	-

		されるおそれがあるので難しい。	
--	--	-----------------	--

◆委員会後、提出された委員メモへの対応

前回資料 P	提出者	意見内容	対応	対応箇所 参照P
	本料 委員	市民参加について、計画を策定する過程で検討することは大切	地域別構想において、地区別の懇談会等を開催して参ります。	-
	本料 委員	「校区まちづくり推進計画」を踏まえた計画づくりを行うことが重要	現在、同推進計画を踏まえて検討を進めていますが、さらに内容について精査していきたいと考えています。	-
	遠藤 委員	主幹線の豊橋につながる交通の整備、スピードアップについて豊橋市、豊橋鉄道と検討が必要	本計画の策定に当たっては、県との調整を行う予定です。また、豊橋鉄道とはバス、鉄道の利用促進に関して公共交通に関する計画を策定する中で継続的な協議を行っています。 なお、豊橋市との調整に関しては、必要が生じれば行いたいと考えています。	資料5 p17
	本料 委員	公園・緑地および景観の整備は「菜の花ロマン街道」の面からも重要	「菜の花ロマン街道」について、観光・交流の視点から整理しました。	資料5 p22、p23
	本料 委員	体験型・学習型・交流型観光等の推進による共生・交流の充実	本市の観光計画においては、今後の本市の観光・交流のあり方として、「体験型・学習型・交流型」であることが大きな要素となっているため、本計画では、観光・交流の振興という視点から検討しています。	資料5 p22、p23